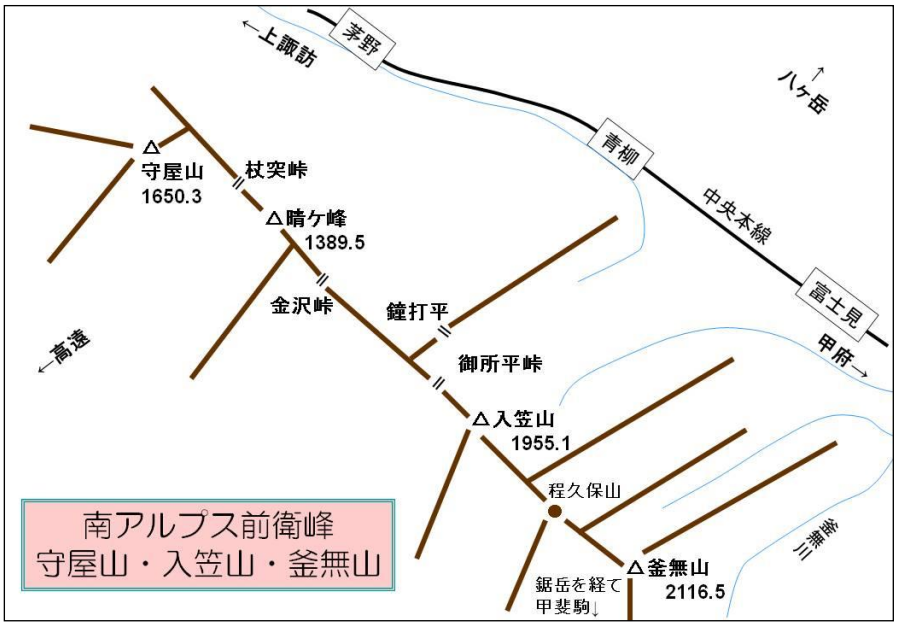
踏　み　跡　＜ My mountains ＞

南アルプス前衛	入笠山（にゅうがさやま）	No.028



今年（昭和 39 年）は、一歩前進の策として、南アルプスの前衛峰を歩いてみることにした。北端の諏訪湖に落ちる守屋山から、入笠山、釜無山、日向山、鞍掛山、黒戸山、甘利山、千頭星山、櫛形山。
どの山も南アルプス北部の3000mの稜線の手前に立つ山で、標高も1500mから2500mの高さを誇っている。それゆえ、これらのどの山からも3000m級の山波が存分に拝めるはずなので、空気の澄んでいる季節には最高の眺めだろう。とまあこんなわけで、まずは手始めに入笠山を、ということになった。

昭和 39 年 4 月 5 日
中野発の臨時列車松本行で出発。塩山・甲府で殆どの乗客が降りてしまいガラ空きになってしまった。
朝空にくっきりと甲斐駒・摩利支天や八ヶ岳。韮崎を過ぎるともう車窓に釘付けになる。どの山もみな列車の窓がちょうど額縁のようになる朝。青柳（海抜 866m）で下車。
6時05分に青柳駅を出発。大沢の集落を抜けると少しずつ高度を上げるようになってくる。途中で「入笠山登山口」と書かれた大きな柱を見落としたため、山道に入らずに幅の広い車道を歩くことになってしまった。背後に八ヶ岳が天を圧するがごとく立っているが、こちらが高度を上げて行くにつれて段々裾野を見せるようになってくる。

見晴し茶屋（1352m）に7時05分着。頂上直下の御所平峠（1791m）に9時35分着。
鐘打平付近より上になると道の両側に除雪した雪が積み上げられ、雪国を思わせる風情。やがて細い廊下のようなところを歩くようになって雪国ムードは満点。
入笠山を越えて南へ縦走して大阿原（おおあはら）湿原へ寄ってみようと思っていたが、小屋の人に聞くと、雪が深いため通り抜けは困難とのことなので諦めた。（上写真：入笠山頂上から中央アルプス方面を望む）
御所平峠から西を見ると、伊那の高遠に下る一筋の道の上に木曽の山脈が白く、長く横たわっている。
峠からさらに数十分登ると入笠山頂上（1955m）になる。御所平峠にも勝る360度の大パノラマが得られる。北に霧ケ峰、そして右に首を回して行くと八ヶ岳、奥秩父の金峰山等、富士山、南アルプスの甲斐駒ケ岳、鋸岳、中央アルプス、北アルプス、すべて残雪に光り輝いている。
約一時間春風に吹かれて食事と雪原と雪の山並みを楽しんだ後、鈴蘭小屋から、大平の集落に下山した。この下りの途中で唐松越しに見た八ヶ岳もなかなか素晴らしかった。

踏　み　跡　＜　My　mountains　＞

富士見駅着は14時55分。走るデッキから駒ケ岳と八ヶ岳に別れを惜しんだ。終日快晴と幸運だったが、雪も多かったせいで顔がヒリヒリするぐらいに日焼けしてしまった。入笠山の4月が気に入った。

以上

＜山名考＞

稲を天日乾燥するために「はざ掛け」した状態を「ニュウ」と呼ぶ地方が多い。

「ニュウ」の形をした「笠」のようだということから「入笠山」の山名が生まれたのかもしれない。実際に登ってみるとよくわかるが、きれいな円錐形をした山である。

一方、はざ掛けを「ジン（人）」と言わず「ニュウ（入）」と言った理由はよくわからない。